



秋の圃場

第六臨時教員養成所教授

竹島茂郎

秋になると萬物が凋落して誠に物寂しいものであると詩人は云ふが、秋は必しも萬物が凋落するとはかりはきまつて居ません。着物で云へば夏物は仕舞はれて冬物が出て來ると云ふ格であります。幼稚園の圃場も實に衣更へせねばならぬ時期に立ち至るのであります。早速に種子物の御用意が肝要ですから、御紹介しませう。

秋種子を下して冬から春の圃場を賑はすものは其の數が甚だ少くありません。先づ農作場につい

て申せば次の様なものがありませう。

(1) だいこん：之は早速種子を下さなければなりません。早い程立派な成績をあげることが出来ます。農家では土用あけ、即ち立秋(通常八月八日頃です)にハヤ種子を下します。勿論早いと暫くは害虫驅除に努力せねばなりません。

二十日大根の様な時無でも夏は餘り成績はよくありませんが、兎に角短期速成的のものよりも堂々たる態度の大型晩成の實例を示すには「ね

り、**み**、**だ**、**い**、**こ**、**ん**」とか、「**さ**、**く**、**ら**、**じ**、**ま**、**だ**、**い**、**こ**、**ん**」とか、「**み**、**や**、**し**、**げ**、**だ**、**い**、**こ**、**ん**」とか云ふものは適當でありませう。細くて長い「もりぐちだいいこん」も忍耐の具體化した様なもので、興趣をそゝりたてます。

(2) **かぶら**…之も中々すてがたいものであります可愛い子供の頬の膨らむ様に毎日膨らんで來るのが見られて面白いものであります。されは舶來種の例の「**こ**、**か**、**ぶ**」は時無しで且つ速成的であるだけ、比較的興味は少ないものであります。先づ聖護院蕪菁を御推薦したのであります。

(3) **あぶら**な之は春になつて花を十分おもちやにさせる爲に種子を下すのであります。「積善の家には餘慶あり」とか、「蒔かぬ種子は生えぬ」とか云ふ言葉が實際植物を作るときに、知らず識らずの間に理解されます。生物界のことは時の要素が必用であり、一步一步に因果の關係が連鎖

をなして居るのでありまして、是等の奥深い眞理を如實に體驗するのが園場の活動であります(4) **漬菜類**…此の中で山東省から傳はつた**山東菜**とか**白菜**とか**體菜**とか云ふのは、夫々顯著な特徴があつて、面白いと思ひます。

(5) 「**そらまめ**」と「**えんどう**」…之も是非蒔いて頂きたいと存じます。「そらまめ」の葉は口に入るとホ、ツキを作ることゝ出來ますし、又春になると手輕に**青そらまめ**の御馳走も出來ることでありませう。

「**えんどう**」は花も實も宜しいものであります。スカートビーは西洋の「**えんどう**」です。之は花はよいが實はだめです。丁度西洋「**さくら**」と反對であります。

(6) **大麥**と**小麥**…之は普通「**さつまいも**」を收穫したあとへ蒔くものでありますから、もつと先です(列擧の順序は丁度蒔く時期の順序に致し

てあります。

麥稈細工の材料も學校で作つたものとあれば、多少品は劣つて居ても最負のつくものであつてちつとでも良い玩具を作らうと努力することでありませう。

尙ほ草花類の栽培は次號に譲つて、こゝには適當と思はるゝ種類の名を幾つか擧げることになります。

はるしやぎく

やぐるまぎく

ひえんさう

むしとりなでしこ

けし

ひなげし

スキートビー

こばんさう

ひめこばんさう

パンジー

ロベリヤ

チユリツブ(球根
ヒヤシンス)

(終)

新任の一日

— 瓜生會幼稚部 —

松木 初枝

呑氣な學生生活の幕を閉ぢて、實社會へ出でんと、力んだのは今年の四月であります。豫め堀先

生及川先生、の御注意は與へられてゐるものゝ、皆各自思ひくゝに、美しい理想の世界を若い胸に